

「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年（昭和46年）に発足しました。本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。今年度は幼児教育関係者、学校の教職員、市町行政職員、PTA関係者を対象に4回の研修を行っています。

「中部人懇」って
こんな会です！



令和2年10月26日（月）、保育所（園）・認定こども園等の先生方を対象として、第1回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

【講義】「子どもの人権を守り・育む保育」常磐会短期大学 卜田 真一郎 教授

（主な内容）

○「守るもの」としての子どもの人権を考える

- ・子どもは弱い立場にあることを自覚し、おとなのあり方を見直すことや人権の視点から、子どもを取り巻くおとなや社会的な環境を問い直すことが求められる。
- ・子ども理解を深めるためには、子どもが園で見せている姿の背景に気づくこと。そのためには、保育者の人権への感性を高めること（人権研修、フィールドワーク等）が必要。

○「育むもの」としての子どもの人権を考える

- ・これまでの同和保育、人権保育の成果の再整理と新たな方向付けとして「人権力」の提起
→人権を守れる行動がとれる子どもの育成
- ・コミュニティづくりの要は「価値観を育てる」こと
→「尊敬」「公平」「反偏見」（人権力のトライアングル）があるクラス

○クラス集団づくりのために～カリキュラムマネジメントについて考える～

- ① 子どもの現実を捉える（保育課題の明確化）
- ② ねらいの明確化（目指す集団・育てたい価値観と各時期のねらいを考える）
- ③ 活動内容を考える
- ④ 保育者の関わりを考える（直接的関わりと間接的関わり）



【グループ演習】

「『集団づくり』ってなに？」をテーマにして、ブレインストーミングを行いました。3人でのグループでしたが、様々な価値観があることに気づきました。



【参加者の感想より】

- 「一人一人を大切に」という保育のベースとなる部分を改めて考え直すことができた。卜田先生のお話から、集団を育むうえで大切な視点を学ぶことができた。
- 自分がどういう価値観を持って保育してきたかということ振り返る機会になった。演習をとらして、多様な考え方があることがわかったので、園内の研修でも取り入れていきたいと思う。
- 一人一人が認められ、子どもたちに居場所を創り出す力や多様性のある社会で生きていく力を育むために、保育者自身が人権意識を見つめ直しながら関わっていくことが大切だと感じた。

卜田先生は、「保育者の価値観が子どもに大きく影響する」と繰り返し話されました。ぜひ、各園で研修を深め、実践につなげていただきたいと思います。

